

まちの ニュース

田山統一祭典で伝統の先祓いを勇壮に舞う

田山地区の各集落の神社が開催日を合わせて祭典を開く田山統一祭典は7月19、20の両日、各神社などを会場に行われました。

この祭典は、五穀豊穡や家内安全を願う田山稲荷、八幡、兄川稲荷、八坂、根渡など田山地区内にある神社でそれぞれ開催。郷土芸能の先祓いを先導に、みこし行列が集落内を練り歩きました。



華やかさの中に力強さも感じられる折壁先祓い



田山先祓いを先導に、集落内を練り歩きます

「先祓い」は、みこしの前を勇壮に踊りながら練り歩き、はらい清める「神楽」の一つです。田山、折壁、兄川集落に伝わる先祓いは、無形民俗文化財として市が指定している伝統芸能です。その装束や舞は集落ごとに異なり、地域の人たちが長年にわたって継承してきました。この先祓いを次の世代に伝えていこうと各集落の保存会が中心となり、現在も継承活動が続けられています。

先祓いの勇壮な舞を一目見ようと、演目が行われる会場には、集落内外から多くの見物人が訪れ、にぎわいを見せていました。

環状列石に込められた思いを学ぶ公開講座

未知の国(みちのく)遺産連続公開講座「岩手山麓の環状列石とその謎を楽しむ」は7月12日、沢口酒店などで行われました。

この講座はNPO法人風景の生命を守る地域づくりネットワーク(田村麗丘代表理事)が主催。盛岡大学文学部の熊谷常正教授を講師に迎え、約50人の参加者が今なお残る環状列石を通して縄文について

て理解を深めました。

同ネットワークは、八幡平市から青森市までを結ぶ東北自動車道、国道282号、国道7号のエリアを縄文街道と位置づけ、縄文から続く北東北の風景や文化を情報発信しています。

参加者は環状列石に縄文の息吹を感じながら、当時の人たちが石に込めた思いを想像していました。



↑松尾地区にある釜石環状列石や滝沢村にある湯舟沢環状列石のレプリカを視察し、縄文に思いをはせました

←熊谷教授の講演に熱心に耳を傾ける参加者たち

焼走りの湯で入浴者100万人を達成する

平成11年7月15日に開業した岩手山焼走り国際交流村「焼走りの湯」は7月4日、入浴者100万人を達成しました。

当日は記念セレモニーが行われ、100万人目の入浴者となった伊藤信さん(平笠)や関係者がくす玉を割り、達成を祝いました。

記念セレモニーに続き、来場者には紅白のもちが振る舞われ、会場内はうれしいムード一色になりました。



100万人達成を記念し、くす玉を割りました

障害者の自立を目指すケアホームの開所式



市内初のケアホーム開所を祝う開所式

県社会福祉事業団・中山の園(二戸町)が、大更地域で運営する障害者の共同生活事業所「八幡平」川村ホームの開所式は7月9日、市地域活動支援センター「ふらっと」で行われました。

川村ホームは市内初のケアホーム。木造住宅をリフォームし、食事や掃除などの支援を受けながら障害のある人が自立を目指して生活します。定員は5人で、市出身者4人が入居してスタートしました。

入院患者の皆さんを元気づけようと、県立大学の土屋陽子教授と学生などによる楽しい音楽会は7月5日、東八幡平病院で開かれました。

入院患者や地域住民など約100人が参加。土屋教授がピアノ、札幌医科大学の沢田雄二教授がチェロをそれぞれ演奏し、「ロミオとジュリエット」などおなじみの映画音楽を披露。また、学生と参加者が一緒に「夏の思い出」などを合唱しました。

楽しい音楽会で学生たちと懐メロを大合唱



入院患者の皆さんと合唱する県立大学の学生



日ごろ鍛えた力を競い合う選手(写真は第2ステージ)

初夏の八幡平路を駆け抜けるロードレース

2008みちのくステージレースinいわては7月11、12の両日、安比高原と八幡平温泉郷を舞台に開催されました。北海道から沖縄まで、全国から約100人の高校トップ選手が集まり、日ごろ鍛えた力を競いました。

第1ステージは安比高原で約6kmの上り坂、第2ステージは八幡平温泉郷で約80kmのレースです。海外派遣選手の選考も兼ねた大会に、大勢の市民が声援を送りました。

日本一のリンドウを全国へ向けて送り出す

新岩手農協(田沼征彦組合長)の安代リンドウ出発式は7月8日、JA新いわて安代出荷場で開かれました。

生産者や関係者など約200人が出席。日本一の生産量と品質を誇る安代リンドウの出荷と販売を祝いました。

出発式で田村正彦市長は、「皆さんの生産したすばらしい安代リンドウを内外に売り込みたい」とあいさつ。テープカットを行い、東京へ出荷するトラックを見送りました。



リンドウの出荷を祝うテープカット

楽しいイベントで盛り上げる地域のお祭り

白坂観音大祭は7月17日、寺田地区の聖福寺の境内を会場に開催されました。

祭りは寺田小学校の児童による鼓笛隊のパレードで幕開けです。地域で伝承される市指定無形民俗文化財の野口鹿踊が華やかに奉納。地域の子どもたちによる歌やお遊戯がかわいらしく披露されました。

また、会場では泣き相撲大会が行われ、市内外から集まった力士たちが、元気な泣き声の大きさを競いました。



好取組を見せる泣き相撲の力士たち

豊作と家内安全を祈願する長嶺神社の祭典

五穀豊穡や家内安全を祈願する長嶺神社の祭典は7月12日、長者屋敷跡にある同神社の境内などで開かれました。会場では福を呼ぶもちまきが行われ、多くの市民が詰め掛けました。場内の相撲場では、松尾地区のスポーツ少年団員などが参加して奉納相撲を開催。個人戦と団体戦が行われ、好取組を見せました。



召福もちまきに大勢の市民が詰め掛けました



訓練に取り組む安代小学校の児童たち

いわぎん「こども110番」運動模擬訓練は7月7日、岩手銀行安代支店で行われました。

安代小学校の4年生23人が訓練に参加。岩手銀行安代支店の山田潔支店長が「もしものときには岩銀こども110番システムを役立ててください」とあいさつしました。

ATMコーナーに設置されたこのシステムにより、非常時には警備会社とコーナー内の音声と画像が送られます。

岩銀こども110番システムで安全な街を

市消防団33分団が支部操法大会で3位入賞

20年度県消防協会岩手地区支部消防操法競技会は7月13日、松尾総合運動公園ヘリポートで行われ、ポンプ車の部で市消防団安代地区団(33分団)が3位に入賞しました。

この大会は、市の大会を勝ち抜いたポンプ車の部、小型

ポンプの部それぞれ3つの分団と岩手郡内の4町村の代表分団が出場。消防機器の正確な操作と消火技術、スピードを競いました。

出場した分団は、いずれ劣らぬ消防技術を披露していました。



↑ポンプ車の部に出場し、3位に入賞した33分団のメンバー

→日ごろ鍛えた正確・迅速な消防技術を披露しました



市をホームタウンの一つとする社会人サッカーのクラブチーム、FCガンジユ岩手のサッカー教室は7月12日、いこいの村岩手体育館で開かれました。

これは、同チームの地域貢献活動の一環として行われたもので、大更小学校に通う児童の父兄が中心となつて企画。1年生から4年生までの23人が参加し、サッカーの楽しさを体験しました。

同チームに所属する三原直之、長岡祐也、西田健吾、キム・ハンビョルの4選手が指導。学年ごとに2班に分け、ボールの蹴り方、止め方などの基



ボールの蹴り方を教わりながらのシュート練習

習ったことを生かしながらゲームを楽しみました。選手は、児童たちのプレーを一つずつ褒めながら、一緒に汗を流しました。

最後に菊池直喜監督から、児童へ同チームのステッカーをプレゼント。参加した児童たちは「サッカーを続けたい」と目を輝かせていました。

基礎練習から始まりました。ボールをよく見るなど教わりながらシュートを練習し、見事なゴールを連発。お待ちかねのミニゲームでは、



選手と一緒にチームでミニゲームを楽しみました

FCガンジユの選手とサッカーを楽しもう